

「プラットフォーム」による新しい地域医療教育：

自主的な学びと効果的な Faculty development の実現

A new online platform system which connects community-based medical institutions to medical students and create student engagement and effective faculty development.

名古屋市立大学大学院医学研究科医学・医療教育学

高桑 修

【研究期間】

令和4年4月1日～令和5年3月31日

【研究の概要】

医療現場での経験は医学生にとって重要な学びの機会である。コロナ禍は世界の医学教育に大きな影響を与え、本学でも2020年のラーニングコミュニティの活動が中断された。2021年の再開にあたり、夏休みの実地参加型教育プログラムで地域医療機関と学生結ぶ教育プラットフォームシステム（図1）を開発した。学生自身が運営する形で試験導入し2022年度に本格運用した。このプラットフォームが生み出すサイクルは次の通り（図2）①学生のニーズを調査 ②教育理論を備えた教育プログラムを開発。③Web上でプログラムを一元化して学生に発信。オンライン予約でチャットシステムを開発。⑤プログラム実施後に情報を一元化し指導者にフィードバックする。

2022年の活動は2021年のプログラムに対する評価を指導医と共有すること開始し、「受け入れ施設との情報共有」「学生との期待の差」など改善してプログラム開発した。2022年度の参加施設とプログラム参加者の内訳を図3に示す。8施設から24のプログラムを開講し、54名の医療系学生が参加（図4）。参加学生からは現場の医療者のプロフェッショナリズムやコミュニケーションなどに対する気づき、医療者としての将来の夢や自身のキャリアについての期待といった記載がみられた。学生の評価（図5）は2021年より向上し、

特に評価が高かったプログラムを学生が選択しAwardとして感謝とともに表彰した。

加速度的に技術や社会が変化する現代において居るシステムも変わり続ける必要がある。学生自身が情報を一元化する“プラットフォーム”は地域医療機関、指導医、学生にとって有用なシステムになりえる。

図1 教育プラットフォーム

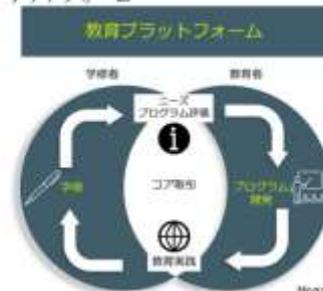


図2 教育プラットフォームが生み出すサイクル

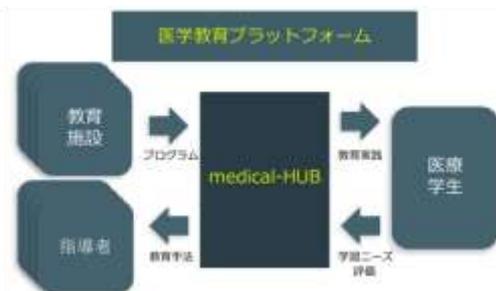


図3 2022年参加施設・プログラム数と応募人数
施設ごとのプログラム数と参加人数

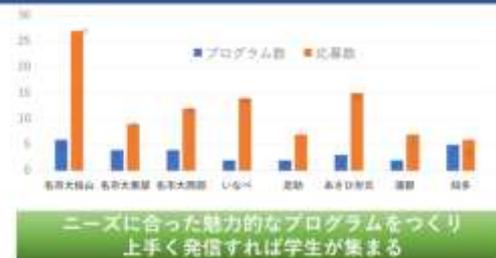


図4 2022年参加学生の内訳

